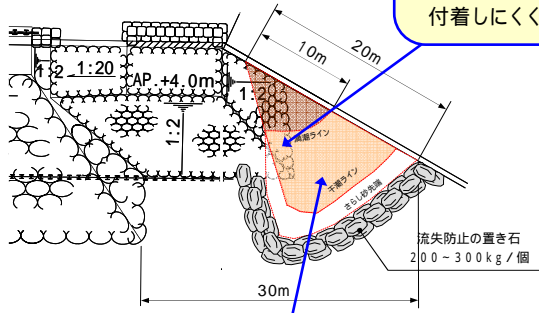
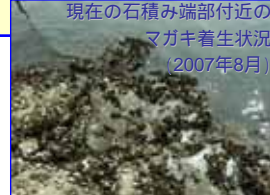


### (3) さらし砂で予測される生物相について

#### さらし砂による 短期的な影響



石積みや鋼矢板壁に付着するマガキを主体とした生物群集の衰退  
波・流れによる砂粒子の摩擦の作用や、砂中に埋もれてしまうなどの影響によりマガキが付着しにくくなる。



さらし砂投入による、現況の砂地に生息する生物の一時的な消滅と、その後の砂地を好む生物群集の定着およそ1年後以降に、砂地を好む生物の加入が期待される

### 石積み護岸の前面に砂浜がある場合の近隣事例からの考察

千葉港海岸 習志野地区		比較的急深 潮下帯から砂地 	カキの付着が多い。	
葛西海浜公園		遠浅 潮下帯から砂地 	カキの付着が多い。	現在の塩浜護岸改修部で予測したケース
幕張の浜	観察時潮位 約70cm  被覆石は1ton. のり勾配は3割	遠浅 中潮帯から砂地 	中潮帯まで砂があると、マガキに代表される付着性の潮間帯生物は少ない。	さらし砂実施箇所で予測されるケース



幕張の石積み護岸部は、前面水深が浅くマガキに代表される付着性の潮間帯生物が少ないと考えられた。

波・流れによる砂粒子の摩擦の作用や、砂中に埋もれてしまうなどの影響により付着しにくくなる。